

直方のまちづくり尽力 市政功労賞・市民栄誉賞

11月22日、直方市市政功労賞・市民栄誉賞の表彰式を市庁舎で行いました。対象となったのは、市の公益および自治の振興発展に功績があり、市の名を高めることに寄与した人たちで、市長から表彰状が贈られました。市政功労賞には、松本久雄さん(74)、松野美知子さん(68)の2人、市民栄誉賞には鋤田正義さん(80)、野見山ミチ子さん(77)が選ばれました。

市政功労賞の松本さんは、地元説明会などに出席し、感田ポンプ場の壁画提案や菜の花大橋のバルコニー提案等、技術的・芸術的側面から美しいまちづくりに貢献。

松野さんは、市の教育委員長を7年務めたほか、地域コミュニティと協力して子どもの学力向上等に尽力しました。

市民栄誉賞の鋤田さんは、国内外で世界的ミュージシャンを撮影し続け、この4月には直方谷尾美術館で里帰り写真展を開催し、1万人超の動員を記録。その半生を追ったドキュメンタリー映画も上映されました。

野見山さんは「直方川づくり交流会」の代表として、20年以上にわたって遠賀川の環境改善や次世代育成に尽力しました。

市長は「それぞれの立場から、直方になくてはならない力を発揮してください。市民の代表としてお喜び・お礼を申し上げます」と挨拶しました。

市民栄誉賞を受賞した鋤田さんは「突然の知らせに驚いているが、とても嬉しい」、野見山さんは「とてもありがたいこと。川づくり交流会全員がいただいた賞だと思っている。これからも子どもたちがどんどん世界に羽ばたいてほしい」とそれぞれ喜びを語りました。



左から松本さん、松野さん、野見山さん、鋤田さん



平成三十一年 元旦
直方市長 壬生 隆明

直方市出身の写真家
鋤田正義さんの作品と一緒に
(6ページに関連記事)

新年
あけまして
おめでとーいございます

お健やかに新春をお迎えになられたことと存じます。

今年には新天皇がご即位される年であり、来る東京オリンピック・パラリンピックを間近に望む躍動の年であります。

ふりかえれば、昨年は直方の歴史とともに歩んだ筑豊石炭鉱業組合直方会議所(石炭記念館本館)と救護練習所模擬坑道が筑豊炭田遺跡群のひとつとして国指定史跡となり、またふるさと納税も過去最高額を達成するなど、直方にとりましても飛躍の年でありました。

本年もみなさまとともにさらなる成長をめざして頑張っていきたいと思います。

みなさまのご多幸とご健勝を心から願いつつ、新年のごあいさつといたします。

日本赤十字社 金色有功章を受章

11月30日、直方市赤十字老人看護奉仕団「胞子の会」が市庁舎を訪れました。11月21日に福岡市で開催された日本赤十字社福岡県支部創設130周年記念赤十字大会において、奉仕者功労の部で「胞子の会」代表の古賀章子さん(73)が、奉仕団功労の部で「胞子の会」が、それぞれ日本赤十字社金色有功章を受章したことを報告しました。この章は、同支部の赤十字奉仕団等で、長年尽力した個人や団体に贈られます。

「胞子の会」は平成3年に設立され、現在の会員は24人。定期的な介護公開講座の開催や、介護老人福祉施設での月一回のシート交換等、介護に関する知見や技術を広めた点が評価されました。

古賀さんは、「この受章は励みになります。介護のことをより多くの人に知ってもらうとともに、もっと会員が集まればなお嬉しい」と語りました。壬生市長は「このような活動を続けるのは難しいと思うが、28年も継続してきたのは本当に素晴らしい」と功績をたたえました。



奉仕の精神が胞子のように拡散しますように